

北欧の国フィンランドの研究者が語る 食の安全と健康

「プロバイオティクス」と「食品中の放射線量」、今話題のトピックスをそれぞれの権威が語ります。

網走開催

日時 2014年10月24日(金)
13:00~

場所 東京農業大学
オホーツクキャンパス
大講義室

プログラム

講演 1

Infant microbiota development and modulation of deviations by probiotics

乳児の腸内フローラ形成とプロバイオティクスによる腸内フローラ異常の調整

講師：Seppo Salminen 氏（フィンランドトゥルク大学機能性食品フォーラム）

講演 2

Radioactivity in foods following the accident

原発事故後の食品中放射線量

講師：Eeva Salminen 氏（フィンランド放射線及び核安全局）

講師紹介



Seppo Salminen 氏

教授・トゥルク大学機能性食品フォーラム

英国サリー大学にて Ph. D. を取得。主な研究テーマは、「宿主の健康と腸内細菌について」、「肥満と腸内細菌について」、「プロバイオティクスによる乳児性アレルギー・疾患の軽減作用について」など。これまでに、400 を超える研究論文を発表している。2003 年から 2012 年まで欧州食品安全機関 (EFSA) の委員をつとめた。また、ウィーン農科大学（オーストリア）やメルボルン大学（オーストラリア）の客員教授を兼任、2010 年には、その業績が認められ、国際酪農連盟からメチニコフ賞（栄養及び健康分野）を受賞した。



Eeva Salminen 氏

教授・フィンランド放射線及び核安全局

オーストリアウィーン大学にて医学博士を、フィンランドヘルシンキ大学にて Ph. D. を取得。主な研究テーマは、ガン治療、放射線治療、毒物学など。これまでに 150 を超える研究論文を発表している。2006 年から 2010 年まで国際原子力機関 (IAEA) にてコンサルタントおよび放射線及び核安全局のヘッドをつとめた。また、トゥルク大学にて教授を兼任している。

主催：「食の安全と健康」講演会実行委員会 共催：食香粧研究会

協賛：株式会社アルビオン・NPO 法人遺伝子栄養学研究所・DRC 株式会社